

議案第 25 号 平成 29 年度加西市 一般会計予算について

質 疑



土本 昌幸 議員
(公明党)

胃がんリスク検診について

問 ピロリ菌が胃がんの主要原因であるとの指摘があります。また、胃がんは男女とも死亡、罹患が3位以内であり、早期に発見して対応する意義は大きく、期待する効果についてお聞きします。

答 我が国の死亡第一原因はがんであり、部位的に見ると肺がんに次いで死亡率は2位、罹患率では1位という状況です。近年の統計学的調査研究によると、

胃がんの発症リスクの因子としてピロリ菌の感染、それによる胃粘膜の萎縮があります。ピロリ菌の感染があると胃がんや胃潰瘍等の病気に罹患する可能性が高くなるとされています。

今回、まちぐるみ健診に20歳以上の希望者を対象として導入します胃がんリスク検診は、血液によるピロリ菌の抗体検査と胃粘膜の萎縮度を測定するペプシノゲン検査です。市民の胃の健康度チェックにより、胃がん等の病気の予防効果を見込んで実施するものです。

問 受診後の対応ですが、ピロリ菌に感染していれば除菌が必要になります。除菌の保険適用についてですが、以前、1回目は保険適用で2回目以降は保険が適用されず、高額な費用が必要でした。また、胃粘膜は年齢とともに

に萎縮すると聞いています。対応策について把握しておればお聞かせください。

答 ピロリ菌の除菌については、胃カメラを受ける条件で、平成25年度から2回目まで保険適用が可能となりました。2回行えば約95%の人が除菌できるといわれています。また、胃粘膜の萎縮については、加齢による老化現象として進むもので、一般的に予防策として、塩分の過剰な摂取を控えること、十分な緑黄色野菜の摂取等が対策として挙げられています。

■その他の質問項目

- ・ 特定基本健診無料化について
- ・ 生活支援サポーター事業について
- ・ 介護ボランティアポイント事業について

議案第 31 号 平成 29 年度加西市 水道事業会計予算について

質 疑



森元 清蔵 議員
(21 政会)

問 鴨谷配水池の事業計画について。

答 新しい配水池の建設については、配水池やポンプ場などの施設を集約し、合理的な施設の配置を考慮して、また災害時においても給水可能な施設として計画しています。平成27年度に1万5,900平方メートルの用地を買収、29年度から30年度にかけて配水池の本体工事、29年度に300ミリの配水管を敷設、31年度に管路を設置し、配水開始は平成33年4月を目途としています。なお、

配水池の容量は、市川水系の1日計画最大配水量の半分の1,500立法メートルに消火栓水量の100立法メートルを加算した1,600立法メートルで計画しています。

完成後の配水地域は、現在市川水系である西在田地区、在田地区、多加野地区と、小谷地区、一部富田地区です。

問 配水池の建設費用は。

答 配水池と配水管で約4億3,000万円です。建設費の一部は国の緊急時給水拠点確保等事業であり、配水池は基幹水道構造物の耐震化事業の、また管路は重要給水施設配水管の整備事業国庫補助採択基準に基づく交付金を充てて施工する予定です。

問 鴨谷配水池の利用による効果は。

答 鴨谷配水池ができることで、概算で20億円を超える更新費用が必要な8カ所の配水池やポンプ場等を廃止することとなり、施設の更新にかかわる費用や施設点検等の維持管理費用が削減となる効果があります。また、災害時でも水道用水の供給が可能となるように水が一度に流出しない設備を設置する予定であり、災害時に対応した施設であることが、一番大きい効果と考えます。

問 受水費の変化は。

答 県水の単価は約124円で、市川町の単価は施設等の減価償却費等を加え115円です。今後県水と市川町の両方から受水した場合の平均単価より、県水のみ受水した場合の単価のほうが安くなると試算しています。